

# HRS主催 サービス介助基礎検定

7月10日、東京・三崎町の東京共育センターで「サービス介助基礎検定」が開催された。同検定は公益財団法人日本ケアフィット共育機構が認定するもので、高齢者とのコミュニケーション能力の必要性と介助技術の基礎を学ぶというもの。2時間完結の体験をメインとした検定で、30人が受講した。

2016年に施行された「障害者差別解消法」への理解について学ぶほか、白内障ゴーグル使用による見えにくさの体験や、車いす使用者や視覚障がい者との接し方などを、実技を通して学んだ。実技では、介助する方法だけでなく、介助される人がどのようなことに不安を感じるのか、そしてどのように声をかけずべきかについて、受講者は多くの気づきを得ることができた。座学や実技を終えたのち認定試験を受け、受講者全員が合格し、認定証を授与された。

高齢者や障がい者など介助を必要とする人たちに接する機会も少なくないサービスパーソンにとって、同検定は有意義な体験となったことだろう。



車いすで段差を上るときのポイントを実技で学ぶ。意外と難しく、参加者は苦戦



白内障ゴーグル使用により、白内障の人たちがどのように見づらいのかを知る



視覚障がい者の誘導の実技では、介助する側と介助される側それぞれを体験



公益財団法人 日本ケアフィット共育機構  
普及 **荒井 奨**

今回、日本ホテル・レストランサービス技能協会様主催での初めての研修になりました。ご参加頂いた皆様が積極的に取り組む姿勢がとても印象的でした。

昨今、日本では2020を迎えるにあたり、障がいのある方や高齢な方だけでホテルやレストランを利用されるシーンも増えてきた為、サービススタッフの方にも介助技術や臨機応変な対応が求められる時代になってきました。

今後は東京だけでなく、様々な地域で開催できればと思っております。